

共有機能を使って、感謝の気持ちを高めよう

『365日の全授業』対応事例▶「がっこうにはね」(p.62~63)

自分たちの学校生活を支えてくれたり助けてくれたりする人々に感謝しようとする心情を育てる。

■子どものICT環境



●**端末**
●iPad (Apple)

●**OS**
●iPadOS 15

●**ツール・アプリ**
●ロイロノート・スクール (ロイロ)

普段の生活で取り組んでいる「ありがとうのみ」を各端末上で作成させます。回答共有機能を使うと、一人ひとりの感謝の気持ちが一覧で表示でき、あたたかい気持ちも共有することができます。

①端末で学校探検をしたときの写真を見る



導入で、2年生と一緒に学校探検をしたときの画像を配信します。子どもたちは端末を見ながら、そのときの気持ちを思い出します。そこで、「あのとき、みんなはどんなことを思った?」「今日のお話の中にも学校探検に行ったそうたさんという子が出てきますよ」などと言い、教材と生活を関連づけられるようにします。

■授業のDXのポイント



①画面配信機能を使って生活と関連づける

各自の端末に、学校生活の様々な場面でお世話になっている人の写真を配信すると、教材の内容理解がスムーズになります。

②デジタルならではのよさを生かす

「ありがとうのみ」の作成を、端末を使って行えば、言葉に様々な色を使った絵も加えて、感謝の気持ちを表現することができます。多様な表現を可能にできるのもデジタルの強みです。

③回答共有機能を使って、全体で共有する

各自が作成した「ありがとうのみ」を提出させ回答共有すると、みんなのありがとうを一覧で見ることができます。



②お世話になっている人を思い起こす



教材の最後で、お世話になっている人たちに手紙を書きたくなった主人公に着目し、次のような発問をします。

「どうして手紙を書きたくなったのかな?」「みんなも手紙を書きたい人はいるかな?」

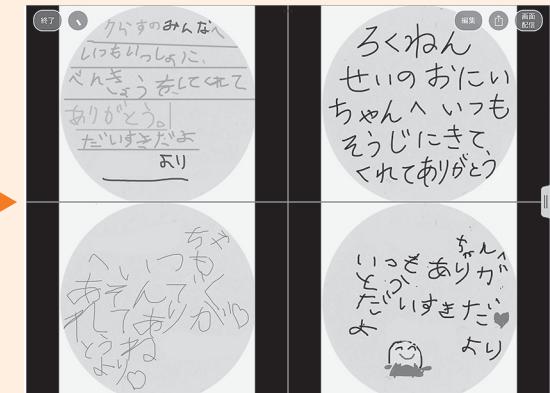
ここでも画面配信機能を使って、学校または地域でお世話になっている人を思い起こさせます。

③回答共有機能を使って、全体で共有する



「ありがとうのみ」と題したピンク色の丸がかかれたシートを端末に送り、お世話になっている人への感謝の気持ちを言葉や絵で表現させ、提出させます。その後、回答共有機能を使って一覧で表示します。友達が誰にどんな感謝の気持ちをもっているかを見て、素敵だと思ったものを発表させます。友達の「ありがとうのみ」を見ながら、発表を聞き、うれしい気持ちを共有します。

④ねらいに迫れている子どもを全体に紹介する



回答を共有すると、どうしても文字や絵が上手にかけている人に目がいってしまいがちですが、本時のねらいである自分たちの学校生活を支えたり、助けてくれたりしている人に感謝の気持ちをもってているかという点に迫れているものを取り上げ、全体に紹介します。最後に「感謝の気持ちをもって生活していこう」という気持ちを高めて授業を終わります。